

鳥取支部だより

——鳥取県透析医会設立のご案内——

高田知朗

はじめに

2022年7月5日に鳥取県透析医会が設立されました。遅まきながら、県内全域の透析医療機関相互の連携体制が整い、このたび、日本透析医会の鳥取県支部としてお認め頂きました。鳥取県透析医会の設立にあたり、秋澤忠男会長をはじめとして多くの役員の先生方ならびに日本透析医会事務局の皆様からご助言とご支援を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

1 鳥取県の透析医療の現状と課題

本邦では、1967年より透析医療が保険適応として認められました。鳥取県における透析医療の始まりは1972年で、県内3カ所の病院でそれぞれ独立して開始されました。当時はキール型人工腎臓が主流で手間と労力がかかり効率も悪く、また外シャントに関連したトラブルも多かったです。当初は透析医療を実施できる医療機関が限られており、県外や離島からの透析患者も治療していたそうです。

国内の透析患者数は統計調査が始まってから現在に至るまで増加が続いていますが、この傾向は鳥取県においても同様で、腹膜透析も含めると1990年には562人であった透析患者数は2020年には1,654人と、ここ30年で約3倍に増加しています。鳥取県内の透析医療機関も2022年7月時点で28施設と増加しました。鳥取県は東西約120kmにわたる距離がありますが、東部、中部、西部の3地区それぞれにある基幹病院と各地区の透析医療機関が連携して透析医療を提供しています。しかしながら、透析医療機関までの通院手段の確保は大きな課題であり、とくに中山間地においては透析医療機関までのアクセスが支障となって、腎不全患者の治療方針の決定に難渋することも珍しくありません。

腎不全患者の高齢化もまた、課題の一つとしてあげられます。鳥取県の高齢化率は2018年時点で31.6%と、全国16位となっています。高齢者では療養や介護など加齢に伴う身体機能の衰えに対しても全人的なアプローチが求められますが、近年、人生の最終段階のケアに関する共同意思決定（shared decision making; SDM）についての議論が活発となっています。とくに、医療過疎地においては、高齢者の保存的腎臓療法（conservative kidney management; CKM）についての情報提供や意思決定のサポートに際して、個々の症例に応じた腎代替療法の選択や透析見合わせも含め

た情報提供など、基幹病院だけではなく透析医療機関や地域にあるかかりつけ医に求められる役割も大きくなっています。さらに、透析医療を担う医療従事者には、腎不全特有の病態に加えて、感染症や心血管疾患などのさまざまな合併症への知識と経験が求められます。鳥取県の腎臓専門医数、透析専門医数はいずれも全国で最も少なく（2021年11月時点）、地域の基幹病院であっても腎臓、透析専門医が不在である施設もあることから、人材育成と地域医療を担う医療従事者への腎不全医療の普及は重要な課題です。

上記のように鳥取県の透析医療には課題が山積しており、透析および腎臓専門医への高いニーズが存在します。これらを共通認識として抱える医療機関での課題解決に向けた気運の高まりと同時に、行政からのサポートも追い風となり、2022年4月に鳥取大学医学部附属病院に新たに腎センターが開設されました。腎センターからの情報発信と人材輩出を基軸にして、鳥取県全体の腎臓病医療の向上を目指す取り組みが始まっています。このような鳥取県全体での腎不全医療への関心の拡がりと呼応して、2022年7月に鳥取県透析医会が設立されました。鳥取県の透析医療の開始から50年目を迎える節目の年に鳥取県透析医会が設立できたことは、嬉しさと同時に身の引き締まる思いがします。

2 鳥取県透析医会の使命

鳥取県透析医会に求められる大きな役割の一つが災害対策です。災害対策の基本となるのは、まず過去にどのような災害が生じてどのような問題が発生したか把握すること、次に今後災害が発生した際にどのような問題が生じうるか想定して備えることと考えられます。県内で初めて透析医療が実施されてから現在に至るまでに、県内でも多くの災害が発生しましたが、2016年10月の鳥取県中部地震（マグニチュード6.6）の際には、県中部の基幹病院で断水による透析実施困難の被害が出ました。マグニチュード5.0を越える地震の発生13件に加えて、豪雨災害も記録されています。この他にも、大雪による透析施設への通院困難事例も複数発生しています。

従来、県内には行政を中心とした災害対策指針が策定されており、透析医療に関連した対策もこの中に含まれます。災害対策本部に参画する透析医療コーディネーターと、県内3地区の透析医療機関代表者からなる地区コーディネーターとの間で、相互に情報共有する体制が想定されていましたが、医療機関相互の情報伝達は不十分で、より強固な体制が求められていました。鳥取県透析医会の働きにより透析医療機関相互の情報共有が容易となり、さらに腎友会など透析患者との情報共有も視野に入れています。鳥取県透析医会では災害対策だけではなく、透析療法の研究、教育および普及に関する事業や人材育成に関する事業にも取り組んでいきます。平時から研修会などを通じて顔の見える関係で横の繋がりを築くことは、災害時の円滑な協力を繋がるものと期待されます。

おわりに

本会は発足して未だ間もなく、日本透析医会鳥取支部としての活動については模索中ではありますが、鳥取県透析医会が中心となって県内の透析医療機関の連携促進をはかり、これを基盤として鳥取県の透析医療のさらなる充実ならびに、より広域にわたる透析医療の発展を目指して参ります。鳥取県透析医会の設立にご尽力賜りました先生にあらためて御礼申し上げるとともに、日本透析医会会員の先生におかれましては、鳥取県透析医会の活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。